

電気・ガス料金調査

2019年9月
日本生活協同組合連合会

はじめに

日本生協連では、2016年4月の「電力の全面自由化」に伴い、「わが家の電気・ガス料金しらべ」を実施しました。この調査により電気・ガス料金に関わる実態を明らかにして、社会的に公表するとともに、調査結果をもとにLPガスの料金透明化・取引適正化に関わる要望書を政府に提出し、LPガス業者向けのガイドラインの制定に貢献することができました。また2017年においても4月に「都市ガスの全面自由化」がはじまるなど、暮らしに関わるエネルギーの情勢が大きく動いている状況を踏まえ、「わが家の電気・ガス料金しらべ」を実施しました。

今回、「家計・くらしの調査」のモニターを対象に、あらためて電気・ガスの料金や電力や都市ガスの自由化についての意識などに関する調査を実施し、料金や利用会社の切り替え状況について過去の調査との比較などを行いました。その結果を取りまとめましたので報告します。

調査の概要

(1)実施方法

調査専用のWebサイト、「わが家の電気・ガス料金しらべ」(スマートフォン、パソコン両方に対応)を設置し、インターネットで調査を行いました。今回は2019年7月4日～15日までを調査期間としました。前回の報告書と比較をするため、5月分の請求書(領収書)をもとに、契約している電気・ガス(都市ガス、LPガスなど)の料金や使用量について、組合員に回答いただきました。加えて、電気ガスと都市ガス自由化に関連する意識や、LPガスを使用している組合員にはLPガスの請求書(領収書)や事業者の対応などについても回答いただきました。

(2)調査対象

日本生協連が実施する「家計・くらしの調査」に登録しているモニター(全国約1,700)を対象に、Eメールを配信し、調査のご協力をお願いしました。

(3)回収状況

(2)の呼びかけを行い、2019年7月4日～15日の期間中に900件の回答をいただきました。そのうち824件を有効回答とし分析しました。

目次

調査結果の特徴P2
回答者のプロフィールP3
電気P5
ガスP9
消費税しらべP8
お寄せいただいた声(抜粋)P18
調査票P20

調査結果の特徴

(1)「電力会社を切り替えた」が23.8%と前回調査から大きく増加

- ・電力自由化以降、「電力会社を切り替えた」が23.8%となり、「わが家の電気・ガス料金調べ」の2017年5月分の調査から割合が大きく増えた。また「切り替える予定はない」は57.0%となり、前回の調査よりもわずかに減少した。しかし、「電力会社を切り替えた」「メニューを変えた」世帯のエリア間の差は依然として大きい。
- ・「切り替える予定がない」理由は「切り替えてもメリットを感じない」が47.7%で一番多い。また、「切り替えることができることを知らなかった」が2.9%おり、電力自由化の中身が完全に認知されているわけではないことがうかがえる。
- ・電力会社を選ぶうえで一番重視する点は、「月々の料金が安いこと」が50.7%と半数以上を占めた。また、「停電の心配がないこと」が19.9%で、電力会社によって停電の発生確率が変化すると認識されている世帯が一定の割合でいると考えられる。

(2)都市ガス自由化を「知らない」が35.8%と自由化の認知度が依然として低い

- ・都市ガス自由化について「知らない」と答えた人が35.8%と、依然として認知度が低い状況。
- ・都市ガス自由化以降に「新しいガス会社に切り替えた」が11.1%と前回の調査から6.5%上昇。しかしエリア間での格差が非常に大きく、新規事業者の参入がない東北、四国、中国エリアでは0%となった。
- ・「切り替える予定がない」理由は「メリットを感じない」が46.4%と5割近くを占めた。また、自由化の認知度が低いこともあり、「切り替えができることを知らなかった」が12.0%だった。

(3)LPガスの料金は高い傾向にある

- ・都市ガスの1㎡当たりの料金は170円であるのに対し、LPガスは313円と都市ガスを大きく上回るなど、LPガスの料金は依然として高い傾向にある。
- ・LPガスは自らガス会社やメニューを選ぶことができるということを「知らない」は63.5%で、都市ガス自由化をさらに下回る水準だった。
- ・LPガスの請求書や領収書において、基本料金や従量料金などが「一切区分されていない」が9.0%、「LPガス会社や店頭などに標準的なメニューが提示されていない」が20.0%、「通知がなく料金の変更が実施された」もわずかながら見受けられた。

※都市ガスとLPガスはカロリー（熱量）が異なるため（都市ガスが約10,740kcal/㎡、LPガスが約24,000kcal/㎡）、LPガスの使用量を2.23倍している。

1 回答者のプロフィール

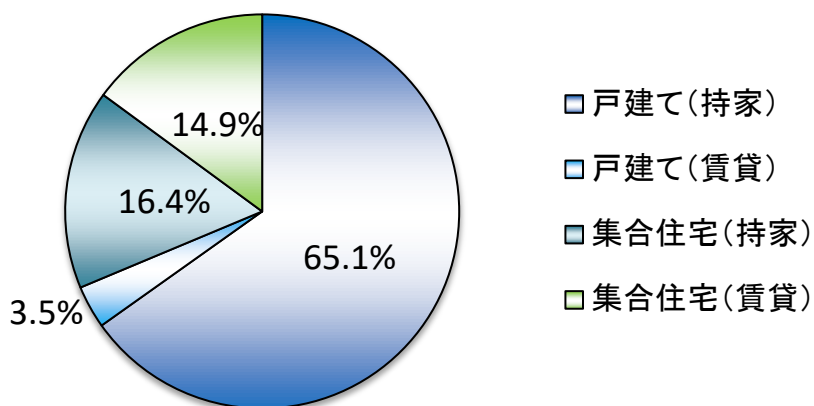
900件の方に回答いただき、そのうち824件を有効回答として分析しました。住宅は戸建て(持家)が65.1%となっています。

ガスの種類および使用の有無は、全体では都市ガスが52.3%で半分を占め、LPガス(プロパンガス)は17.6%でした。一方、オール電化の世帯も太陽光発電なし、太陽光発電付の合計で27.2%と3割近くを占めています。住宅別にみると集合住宅(持家)では都市ガスが88.9%と9割近くとなりました。また、集合住宅の賃貸ではLPガスを使用している世帯が32.5%と3割を超えました。

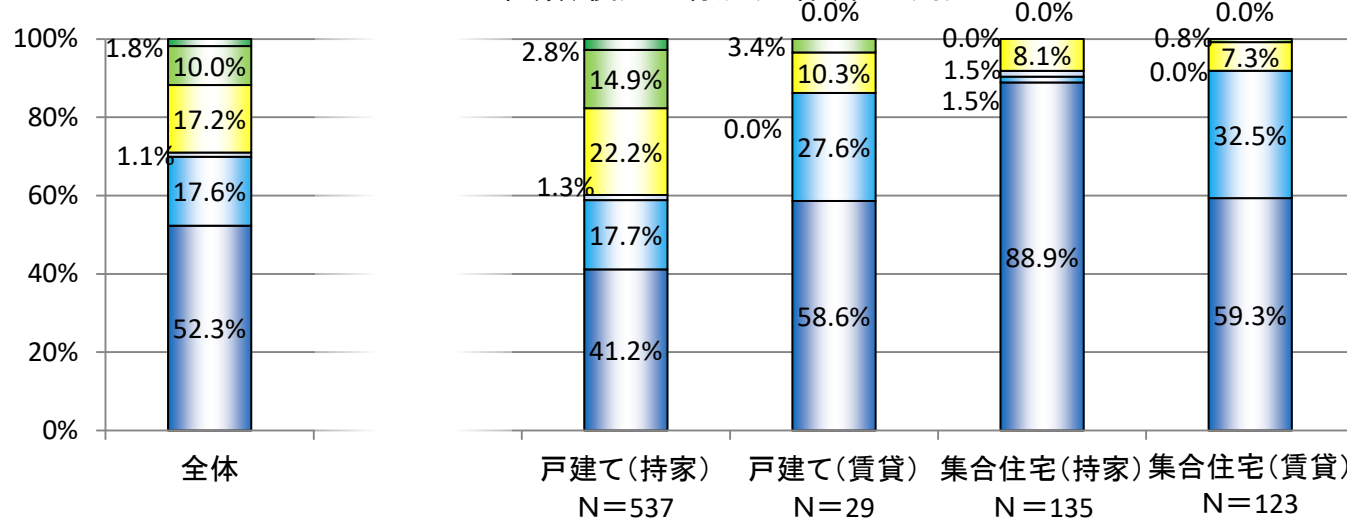
ガスの種類および使用の有無をエリア別にみると(次ページ)、都市ガスについては近畿エリアで72.4%、関東エリアで66.7%、LPガスは四国エリアで38.7%、九州エリアで34.7%、東北エリアで32.3%と多くの割合を占めています。また、中国エリアではオール電化(太陽光発電なし、太陽光発電付の合計)が55.9%と5割以上を占めています。

ガスを使用している世帯の使用目的としては(次ページ)、調理が94.5%、給油が88.6%と大部分を占めています。

住宅の種類(戸建、集合住宅)

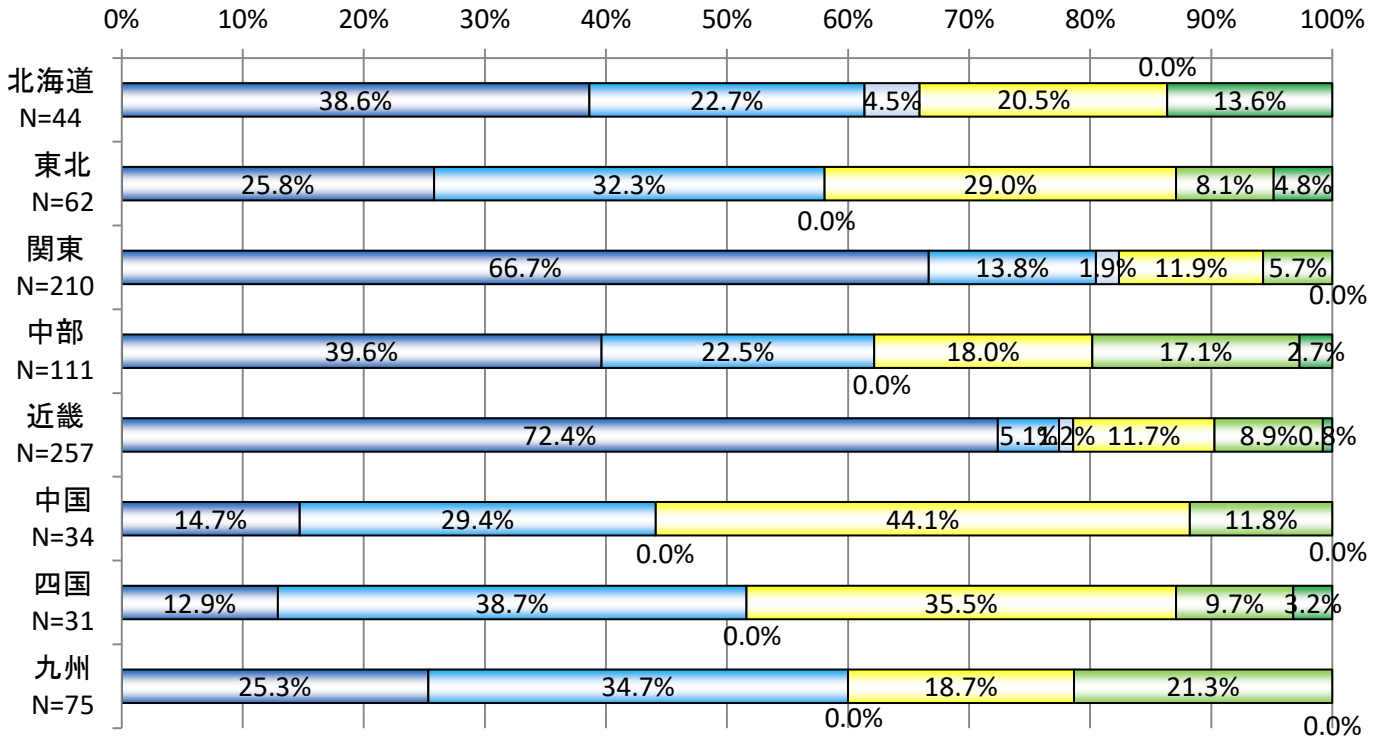


ガスの種類、使用の有無(全体、住宅別)



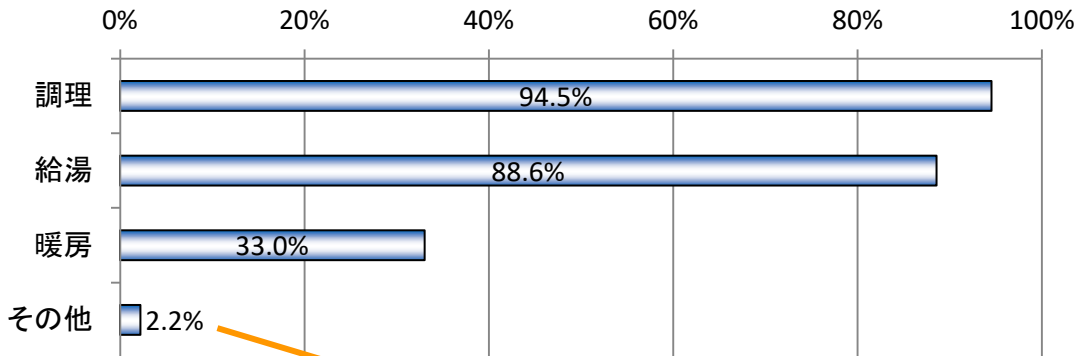
■ 都市ガス
 ■ LPガス
 ■ 簡易ガス
 ■ オール電化(太陽光発電なし)
 ■ オール電化(太陽光発電付)
 ■ その他

ガスの種類、使用の有無(エリア別)



都市ガス
 LPガス
 簡易ガス
 オール電化(太陽光発電なし)
 オール電化(太陽光発電付)
 その他

ガスの使用目的

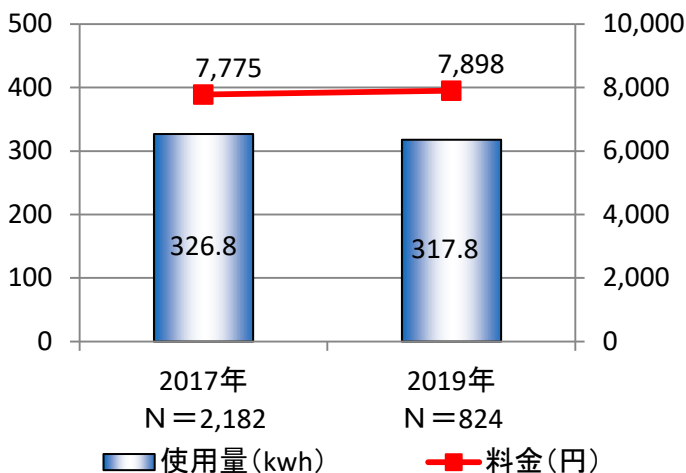


ガス使用目的(その他 自由記述の抜粋)
ガス発電
食洗機
浴室乾燥

2 電気

(1) 電気使用量・料金

電気使用量と料金(平均)



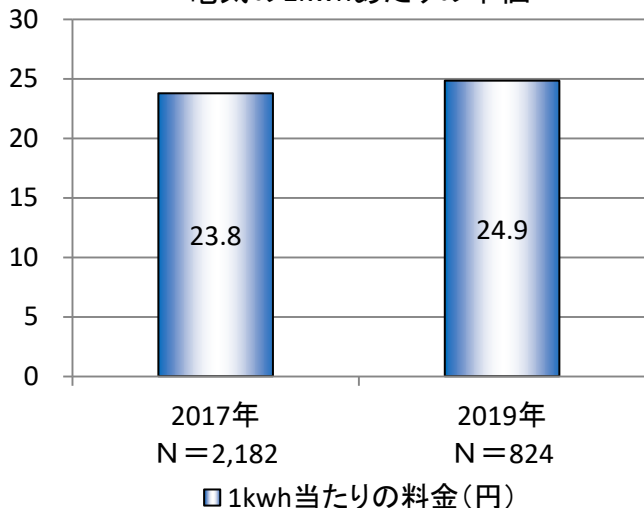
2019年5月の電気の使用量の平均は317.8kwh、料金の平均は7,898円でした。

電気の1kwhあたりの単価は24.9円となり、「わが家の電気・ガス料金調べ」の2017年月5分の調査からあまり変化がありませんでした。

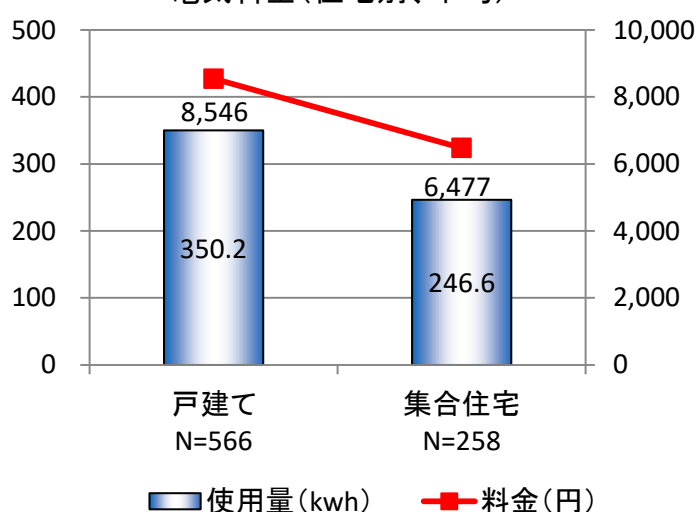
住宅別では、戸建てが使用量と料金ともに、集合住宅よりも高いという結果になりました。

電気使用量と料金の分布図をオール電化でない世帯(ガスなどの使用世帯)とオール電化の世帯を比較すると、使用量についてはオール電化の世帯が比較的高い傾向にあります。また、太陽光発電で売電などを行い電気代を押さえられている世帯などがあるなどが要因と考えられますが、オール電化の世帯の料金分布にばらつきが見られます。

電気の1kwhあたりの単価

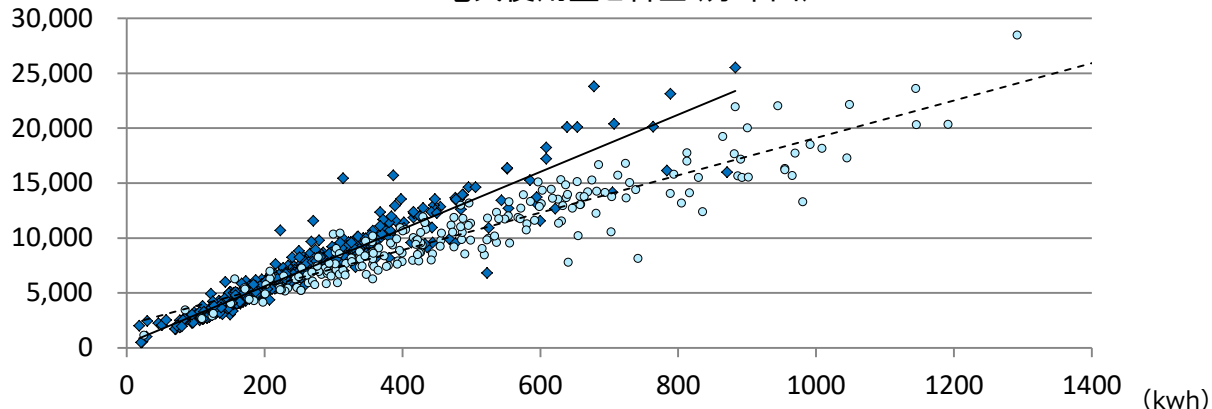


電気料金(住宅別、平均)



(円)

電気使用量と料金(分布図)

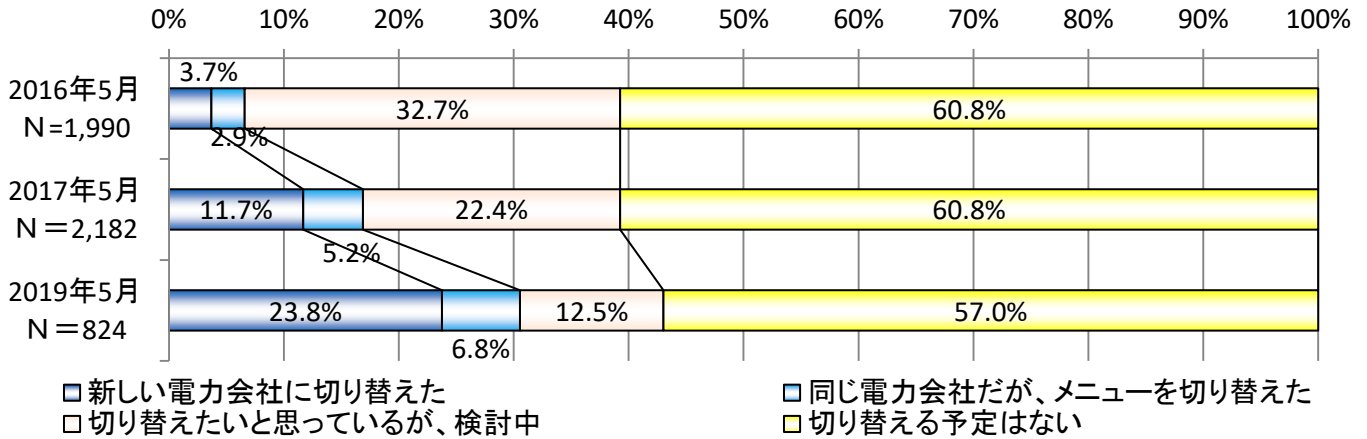


◆ オール電化でない ○ オール電化 — 線形(オール電化でない) - - - 線形(オール電化)

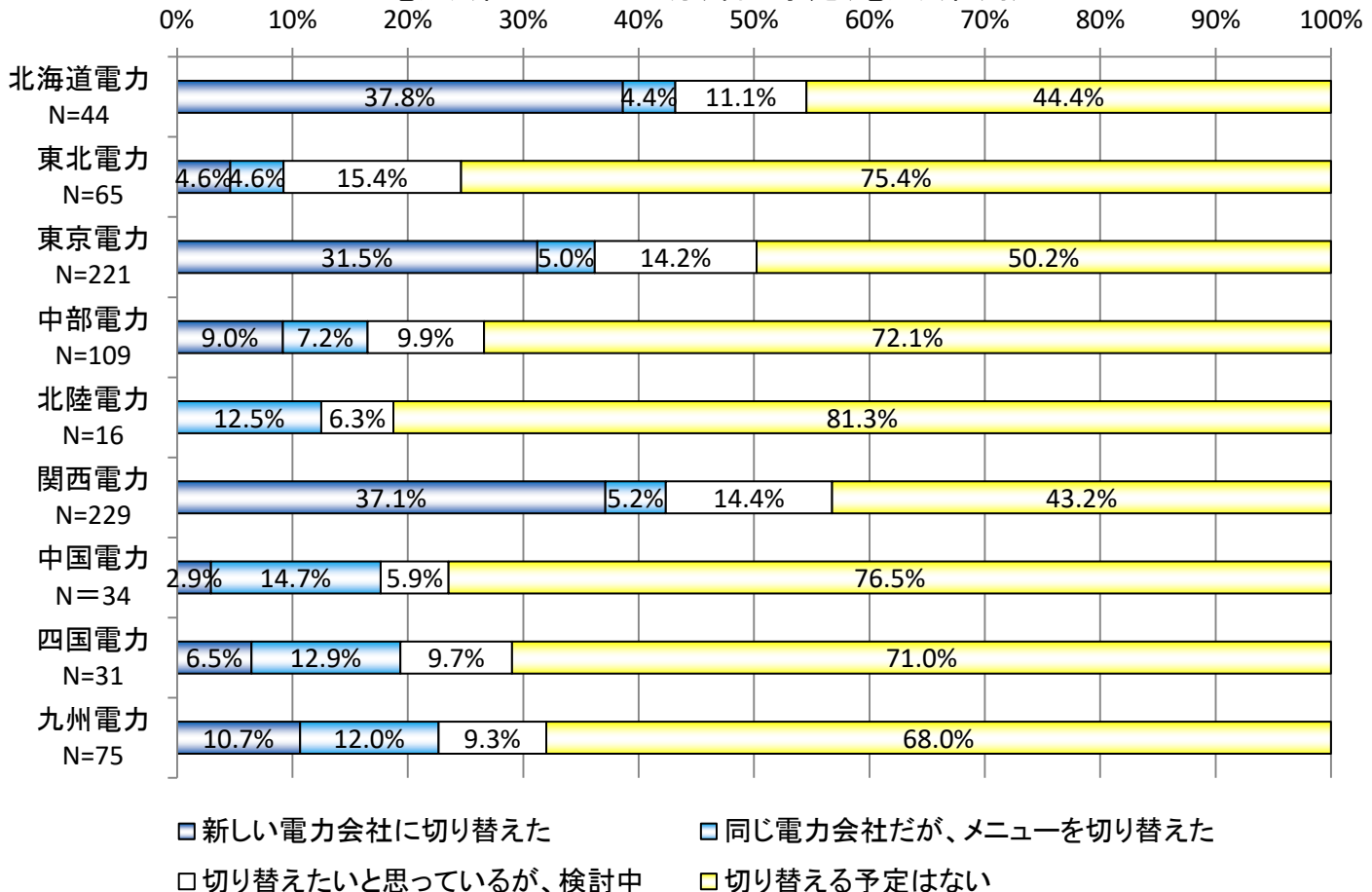
(2) 電力に関連した意識調査

電力自由化以降の電力会社・電気メニュー切り替えについて聞いたところ、23.8%が電力会社を切り替えたと回答し、「わが家の電気・ガス料金調べ」の2017年5月分の調査から大きく増えました。また、6.8%がメニューを切り替えた、12.5%が検討中と回答しました。また「切り替える予定はない」という回答は57.0%となり、前回の調査よりもわずかに減少する結果となりました。

電力会社・メニューの切り替え経験・予定

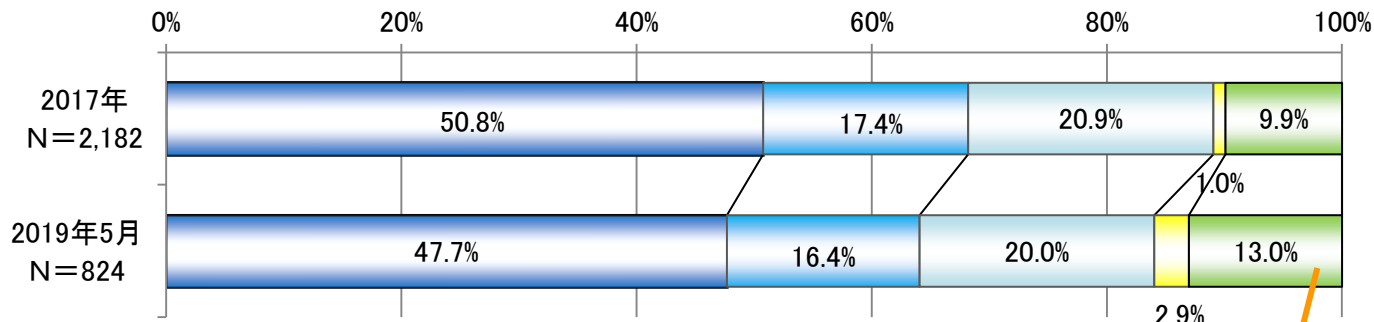


電力会社・メニューの切り替え予定(電力会社別)



電力会社エリア別にみると(前ページ)、電力会社を切り替えた世帯は北海道電力のエリアで37.8%、関西電力のエリアで37.1%となっていますが、北陸電力のエリアでは0、中国・東北電力のエリアでも5%を切るなど、地域によって差が見られました。メニューの切り替えについては、中国、四国、北陸、九州電力のエリアで1割以上が実施しており、電力会社の切り替えの割合が比較的少ない地域を中心に進んでいます。東北電力エリアでは電力会社・メニューの切り替えたと答えた割合が10%を切っていますが、検討中が15.4%と全エリアの中で一番多くなっています。

電力会社やメニューを「切り替える予定がない」理由



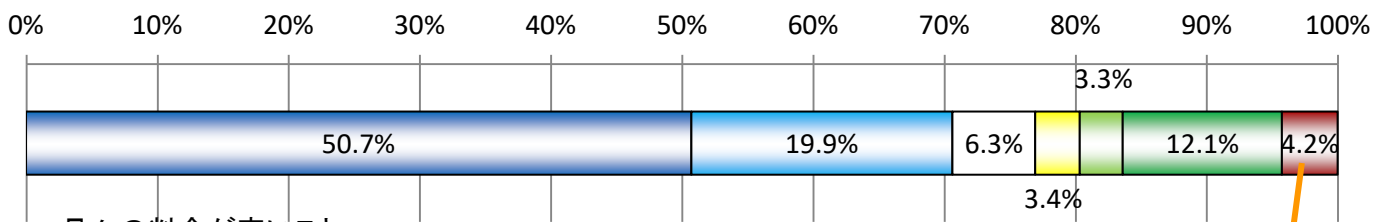
- 切り替えてもメリットを感じない(料金が変わらないなど)から
- 電力会社・料金メニューの比較が複雑でよくわからないから
- 他の電力会社・料金メニューについて調べることがめんどうだから
- 切り替えることができることを知らなかったため考えたことがない
- その他

切り替えない理由(その他 自由記述の抜粋)
現状に満足しているため
売電収入があるため
オール電化なので切り替えると高くなるから

電力会社・電気メニューの切り替え経験・予定について「切り替える予定がない」と返答した回答者のみ、その理由について聞きました。一番多かったのが「切り替えてもメリットを感じない」で47.7%、ついで「調べることがめんどう」が20.0%となりました。また、「切り替えることができることを知らなかった」答えた割合も2.9%いたことから、電力自由化の中身が完全に認知されているわけではないことがうかがえます。

電力会社を選ぶ際に一番重視する点を聞いたところ、「月々の料金が安いこと」が50.7%と5割以上を占めました。「環境配慮」は6.3%、「使用量・請求料金の表示のわかりやすさ」は3.3%でした。また、電力会社によって停電が発生する確率が異なることはないのですが、「停電の心配がないことを」は19.9%でした。その他の自由記述では、電力会社に対する信頼などを重視する意見も出されていました。

電力会社を選ぶ際、一番重視する点



- 月々の料金が安いこと
- 停電の心配がないこと
- 環境配慮
- 付属しているサービスの良さ(ギフト券、ポイント付与など含む)
- 使用量・請求料金の表示のわかりやすさ
- 考えたこともない
- その他

重視する点(その他 自由記述の抜粋)
信頼できるかどうか。今までの実績。
電力とガスと一緒に払えること。
スマホ購入時に勧められた。
大手であること。
何かあった時の対応。

3 ガス

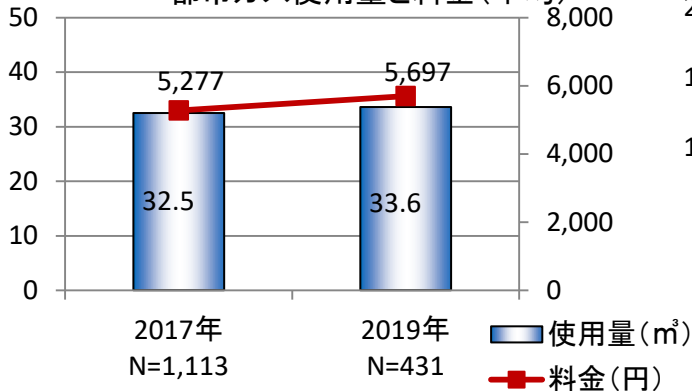
(1) ガス使用量・料金

都市ガスの使用量の平均は33.6^m、料金の平均は5,697円でした。LPガスの使用量の平均は8.9^m、料金の平均は6,217円でした。都市ガスの平均料金と比較するとLPガスの方が520円高くなりました。

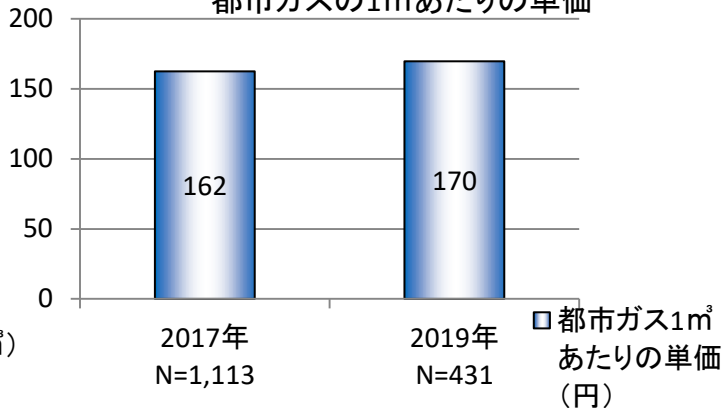
都市ガスの1^mあたりの料金は170円と「わが家の電気・ガス料金調べ」の2017年月5分の調査から8円の増加、一方でLPガスは697円と113円の増加となりました。

都市ガスとLPガスの使用量と料金の分布図を重ね合わせて、それぞれ比較をしたところ(次ページ)、LPガスの方がばらつきが大きく、使用量が増えるとともに料金が大きく増加する傾向が見られます。

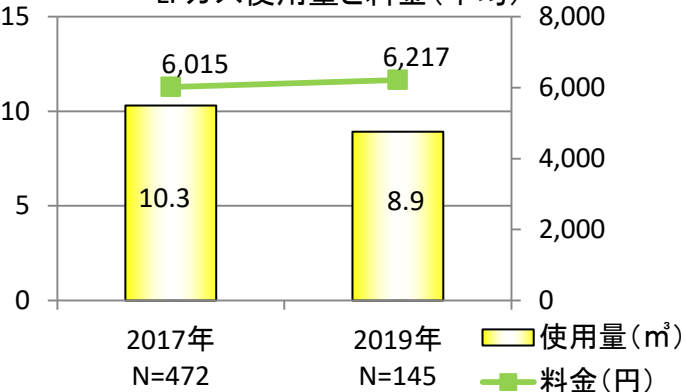
都市ガス使用量と料金(平均)



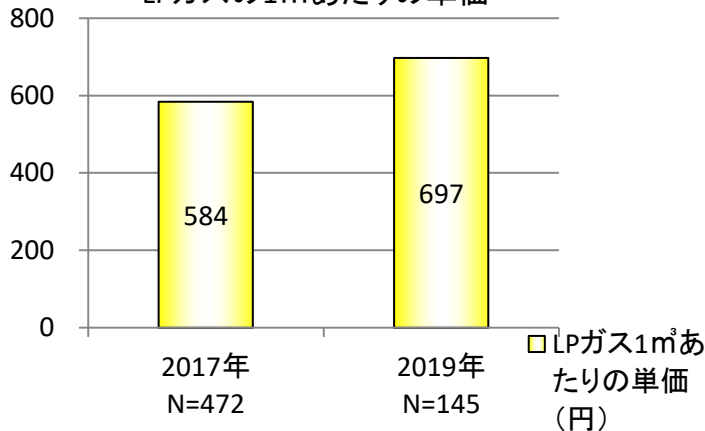
都市ガスの1^mあたりの単価



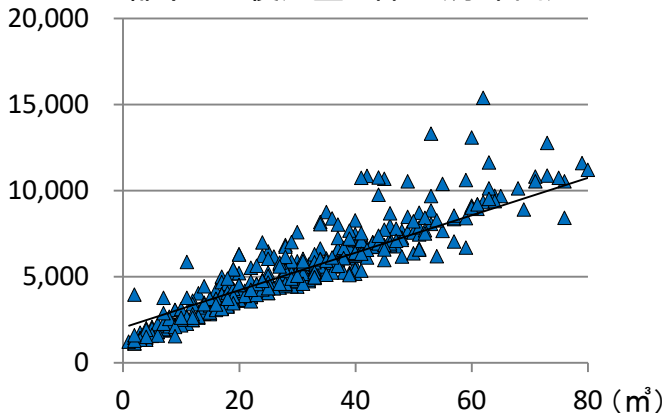
LPガス使用量と料金(平均)



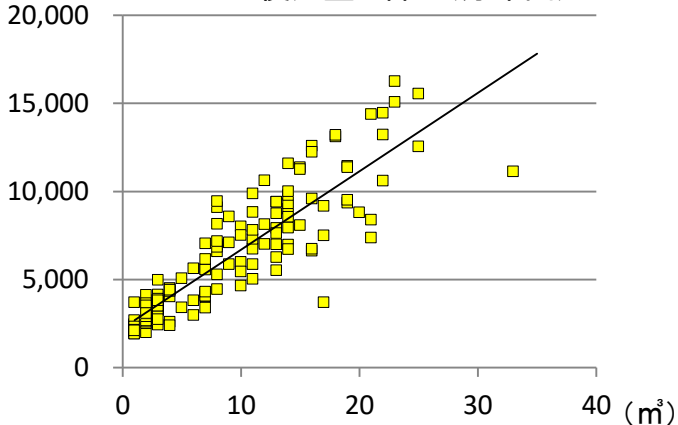
LPガスの1^mあたりの単価



都市ガス使用量と料金(分布図)

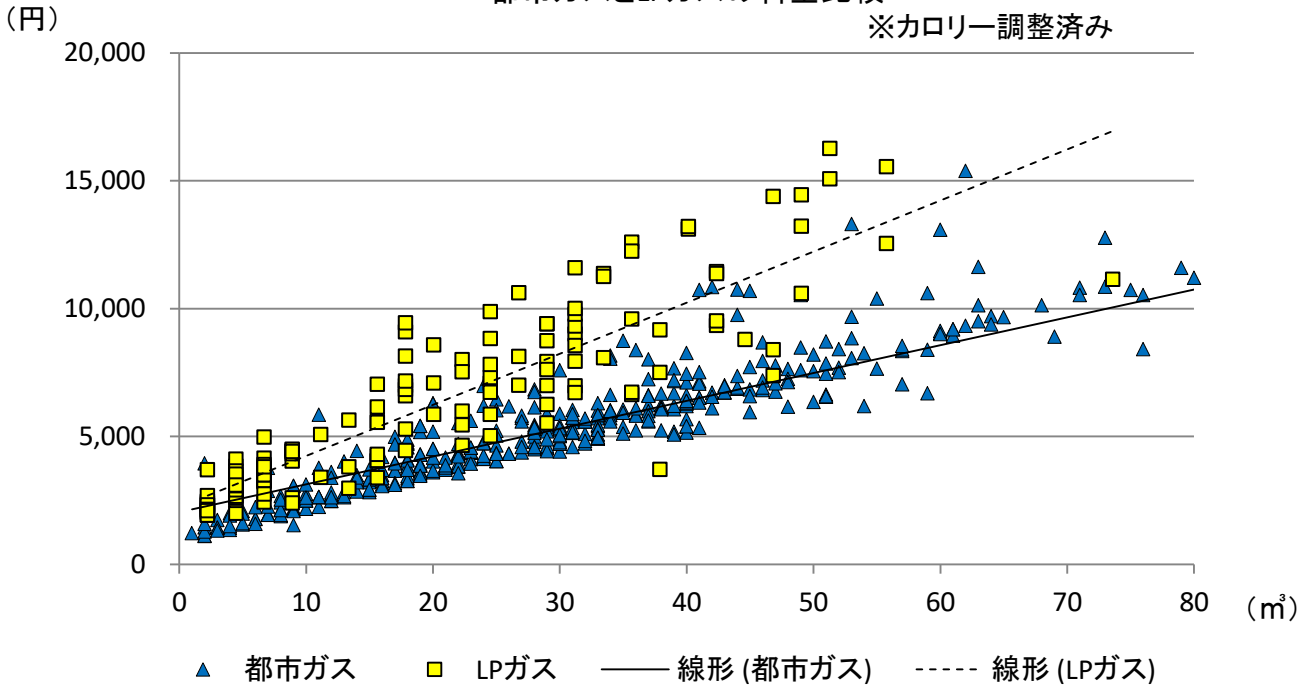


LPガス使用量と料金(分布図)



都市ガスとLPガスの料金比較

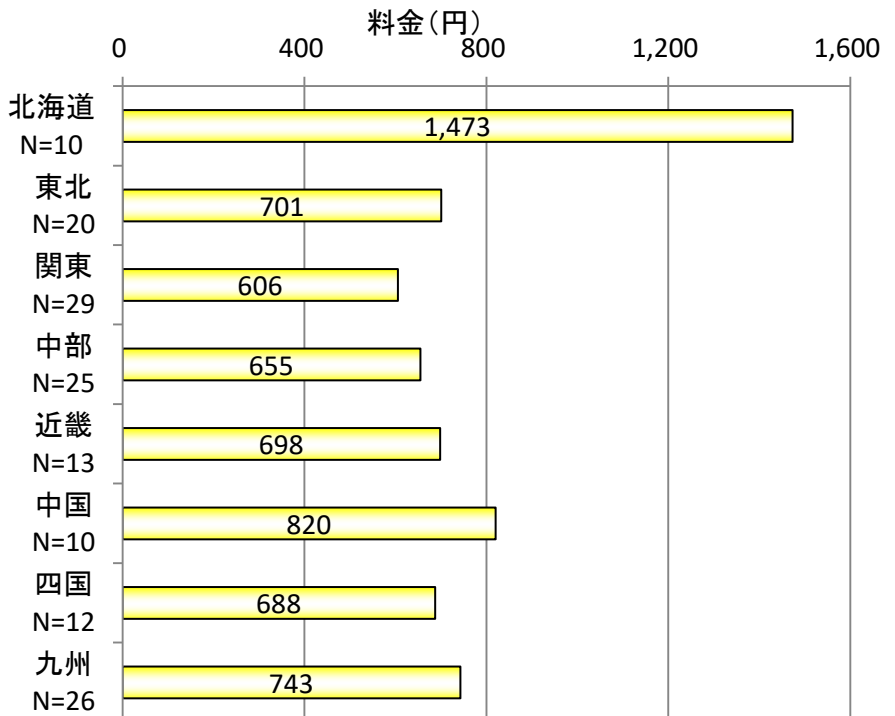
※カロリー調整済み



※都市ガスとLPガスはカロリー(熱量)が異なるため(都市ガスが約10,740kcal/m³、LPガスが約24,000kcal/m³)、LPガスの使用量を2.23倍しています。

LPガスの使用量をエリア別にみると、関東、中部、近畿エリアと北海道エリアでは3倍以上となっていることがわかりました。また、1m³あたりの料金を地域別に比較したところ、特に北海道エリアが他エリアよりも突出して高くなり、一番安い関東エリアとは837円の差がありました。

LPガス1m³あたりの料金(地域別、平均)

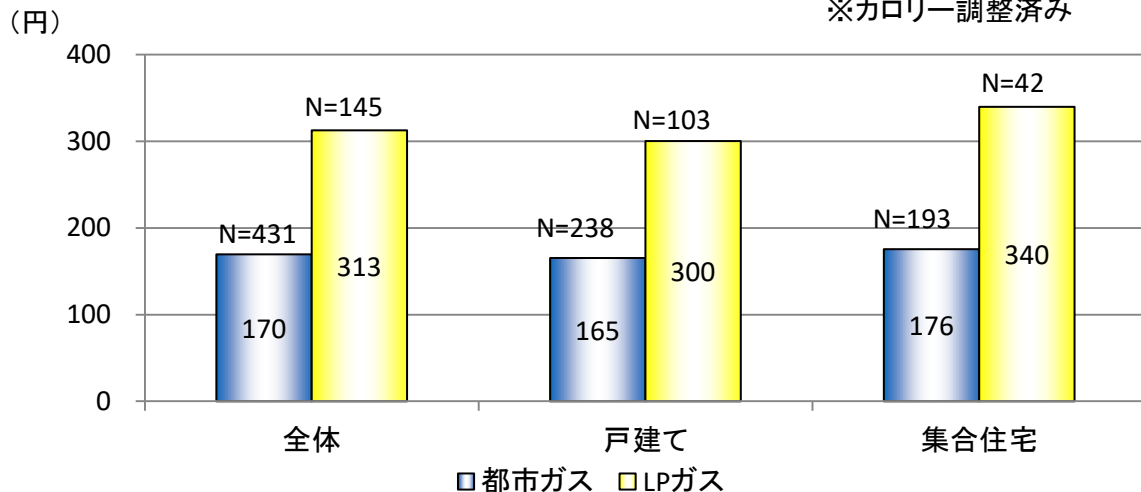


LPガスの使用量と料金 (地域別、平均)

	使用量 (m ³)	料金 (円)
北海道	2.9	4,272
東北	8.5	5,958
関東	11.1	6,703
中部	11.2	7,363
近畿	9.4	6,555
中国	7.7	6,317
四国	7.5	5,156
九州	7.8	5,801

都市ガスとLPガスはカロリー（熱量）が異なるため、カロリー調整を行ったうえで1㎡当たりの料金を比較しました。都市ガスは170円であるのに対し、LPガスは313円と都市ガスを大きく上回っています。住宅別で見ると、戸建てと集合住宅ともにLPガスの方が高くなりました。LPガスの方に注目すると、戸建てと集合住宅とで40円の差が見られました。

都市ガスとLPガスの料金の単価比較（住宅別、平均）
※カロリー調整済み

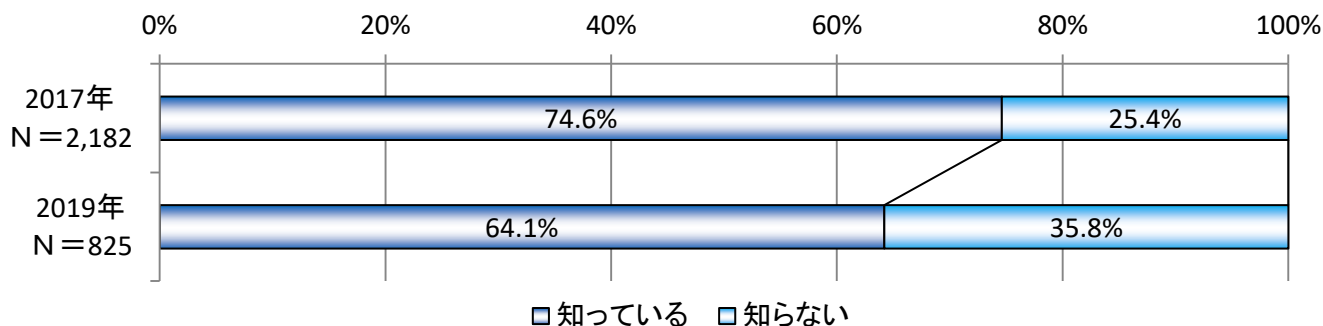


(2) 都市ガスに関連した意識調査

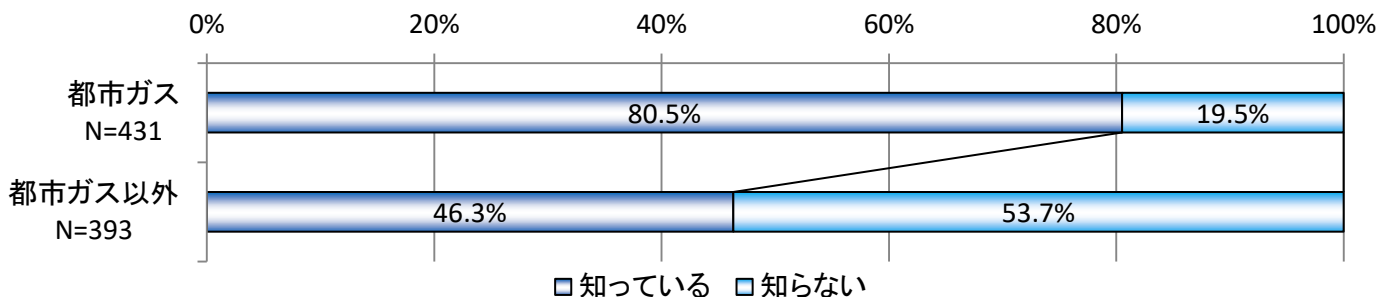
都市ガス自由化について「知らない」と答えた人が35.8%と、電力自由化よりも知っている割合が大幅に低くなっています。

使用別の比較では、都市ガスを使用していない世帯では「知らない」が53.7%と5割以上となりました。一方、都市ガスを使用している世帯に限定しても19.5%と2割程度が「知らない」ということがわかりました。

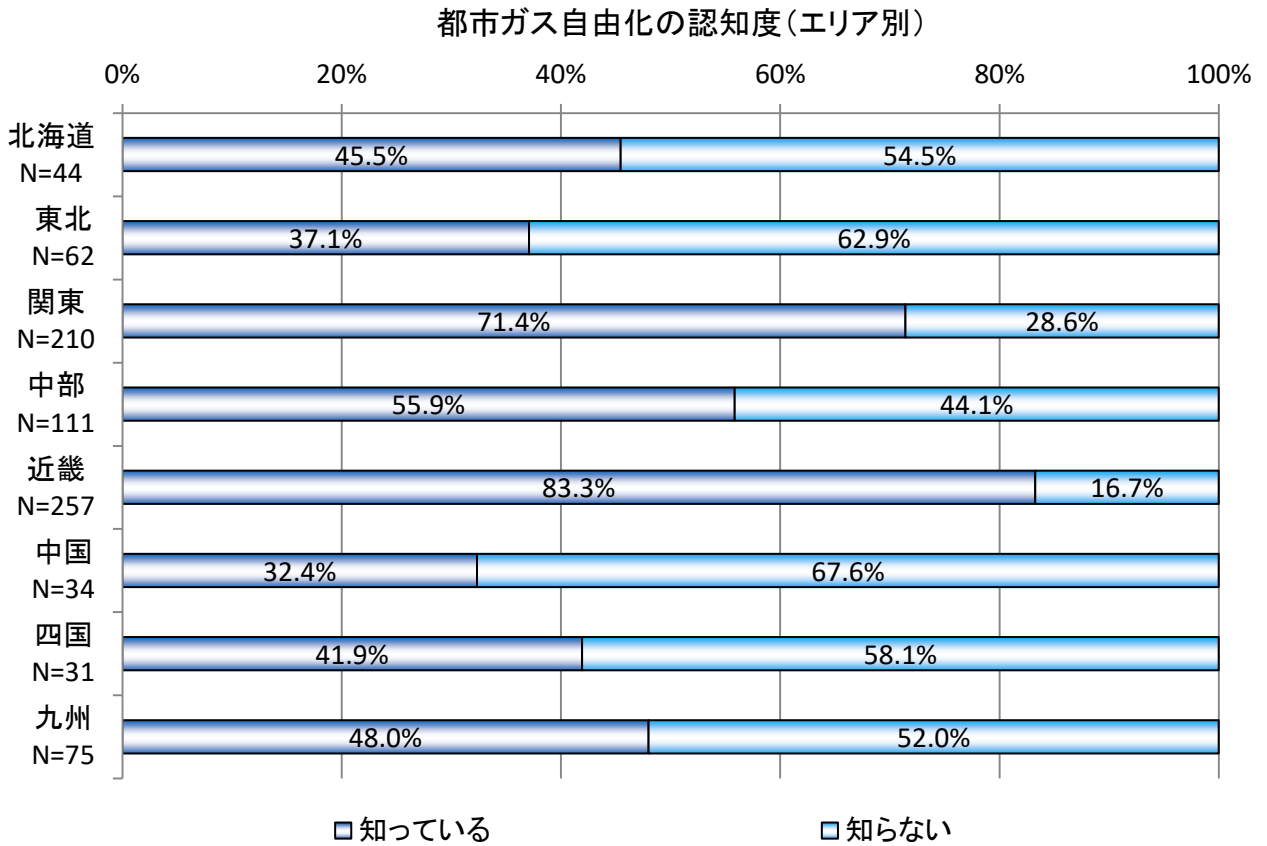
都市ガス自由化の認知度



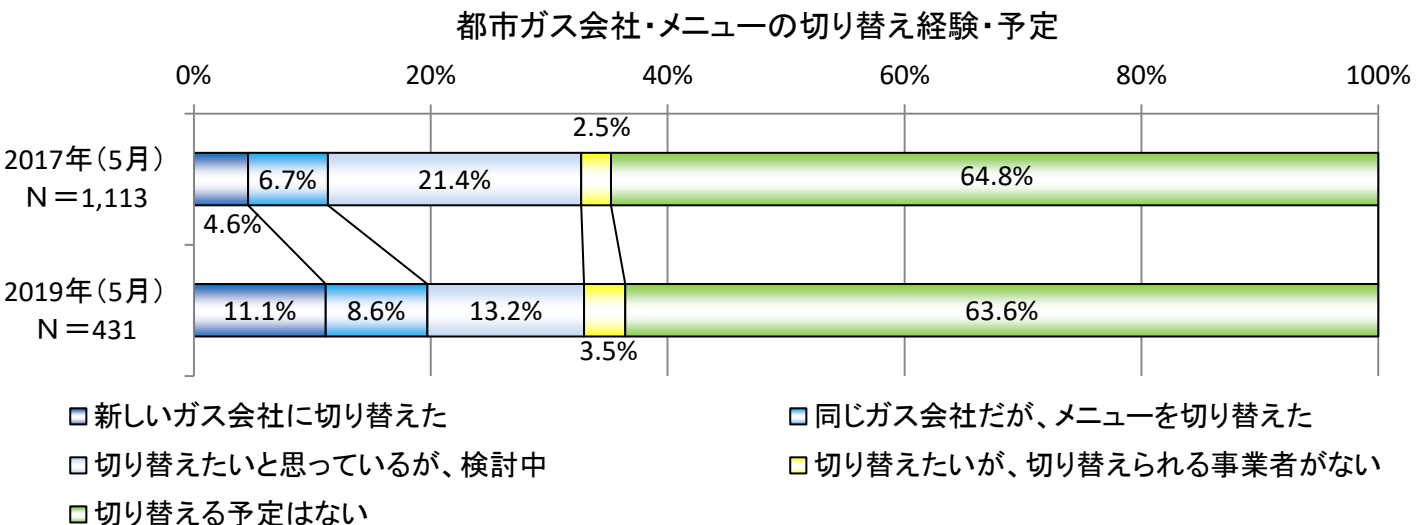
都市ガス自由化の認知度（使用別）



都市ガス自由化の認知度はエリア別で大きな差が見られます。近畿、関東エリアでは高く、中国、東北エリアではかなり低くなっています。

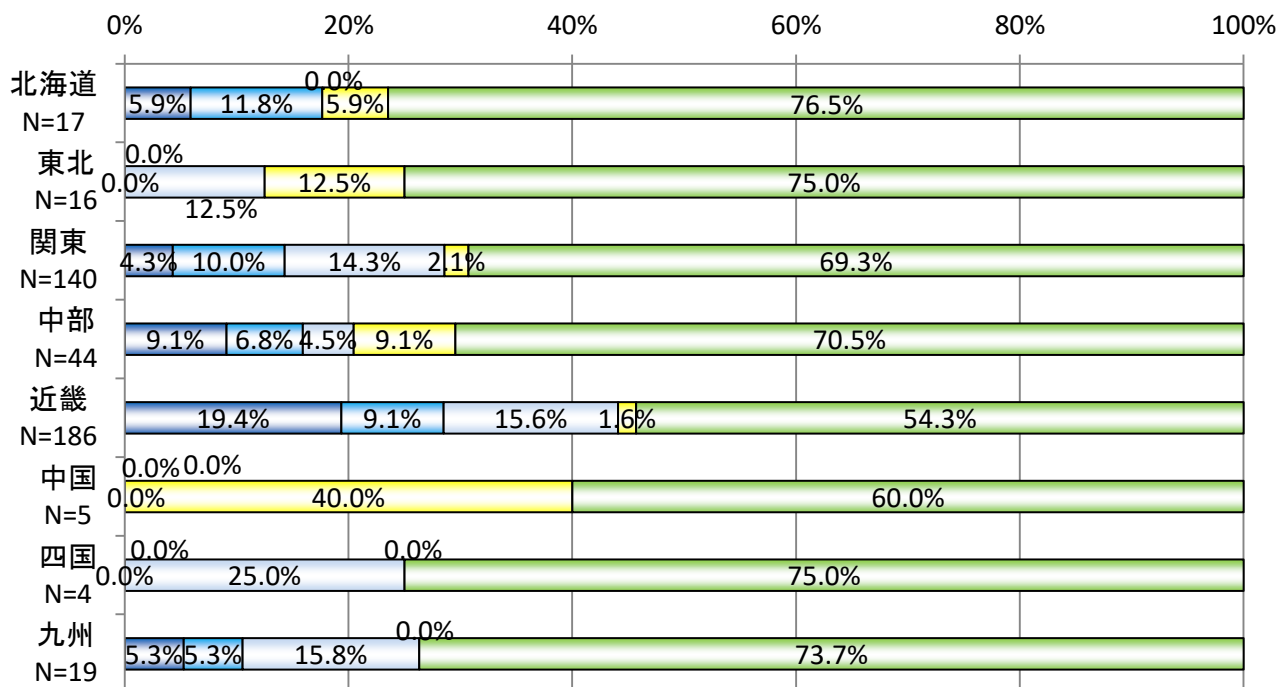


都市ガス自由化以降の都市ガス会社またはメニューの切り替え状況について、「新しいガス会社に切り替えた」が11.1%と前回の調査から6.5%上昇しました。また「メニューを切り替えた」も8.6%となりました。しかし、「切り替える予定はない」は63.6%と以前の調査とあまり変化がないことから、もともと切り替えの意思がない世帯における意識の変化はあまり起きていないということが推測できます。また、「切り替えたいが、切り替えられる事業者がない」という回答も3.5%となっています。



都市ガス会社またはメニューの切り替え状況をエリア別にみると、近畿エリアでは19.4%と2割近くが新しいガス会社への切り替えが進んでいるのに対し、東北、中国、四国エリアでは新規参入事業者がないため0%となっています。自由化に対する認知度が高いエリアでは比較的切り替えも進んでいると言えます。なお、新規参入事業者がない北海道エリアで「新しいガス会社に切り替えた」の回答が入っているのは引越しなどに伴う切り替えです。

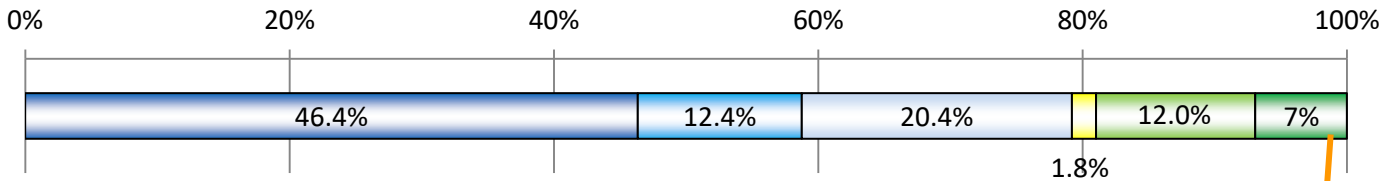
都市ガス会社・メニューの切り替え経験・予定(エリア別)



- 新しいガス会社に切り替えた
- 同じガス会社だが、メニューを切り替えた
- 切り替えたいが、切り替えられる事業者がない
- 切り替えたいが、検討中
- 切り替える予定はない

都市ガス会社・メニューの切り替え経験・予定について「切り替える予定がない」と返答した回答者のみ、その理由を聞いたところ(次ページ)、「メリットを感じない」が46.4%と5割近くを占めました。「調べることがめんどろ」が20.4%、「比較検討が複雑でよくわからない」が12.4%と続きます。また、自由化の認知度が低いこともあり、「切り替えができることを知らなかった」も12.0%となっています。なお、「切り替えたいが、切り替えられるガス会社がない」は、前問の切り替え経験・予定でも同様の選択肢を入れておりましたが、これらの選択肢を選んだ方の合計は20件で、都市ガス使用者の4.6%を占めます。その他の自由記述では、集合住宅であるため切り替えることができないため、供給の安定性を重視するため、などの意見が挙げられていました。

都市ガス会社や電気料金を「切り替える予定がない」理由



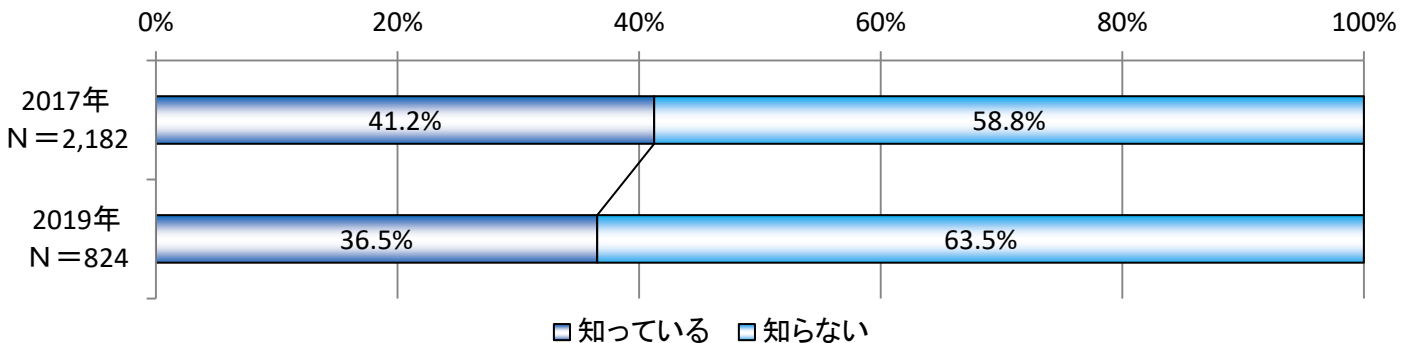
- 切り替えてもメリットを感じない(料金が変わらないなど)
- ガス会社・料金メニューの比較検討が複雑でよくわからない
- 他のガス会社・料金メニューについて調べることがめんどろ
- 切り替えたいが、切り替えられるガス会社がない
- 切り替えができることを知らなかった
- その他

切り替えない理由(その他 自由記述の抜粋)
安定した供給ができるか疑問があるため
賃貸のため勝手に変えられないため
団地内にガス管が配置されているため
切り替えたばかりのため
住宅のメンテナンス等まで安心して依頼できるため
ガス床暖房を使っているのでプラン割引があり、切り替えると損なので
マンションなので戸別に切り替えできないから
使用量が少ないので変える事を考えなかったから
すでに電気をガス会社にまとめたから
このままが安全な気がするので
何かあったときの対応が気になるので
床暖房につき割引あるため
保守管理などしっかりする姿勢がみられる会社だから
マンションなので個別に契約できないため

(3)LPガスにおける現状

LPガスは自らガス会社やメニューを選ぶことができますが、そのことを「知らない」と回答した割合は63.5%でした。2017年の「わが家の電気・ガス料金しらべ」の調査では58.8%で、2年前から認知度は高まっていないということがうかがえます。また、都市ガスの自由化よりもさらに認知度が低くなっています。

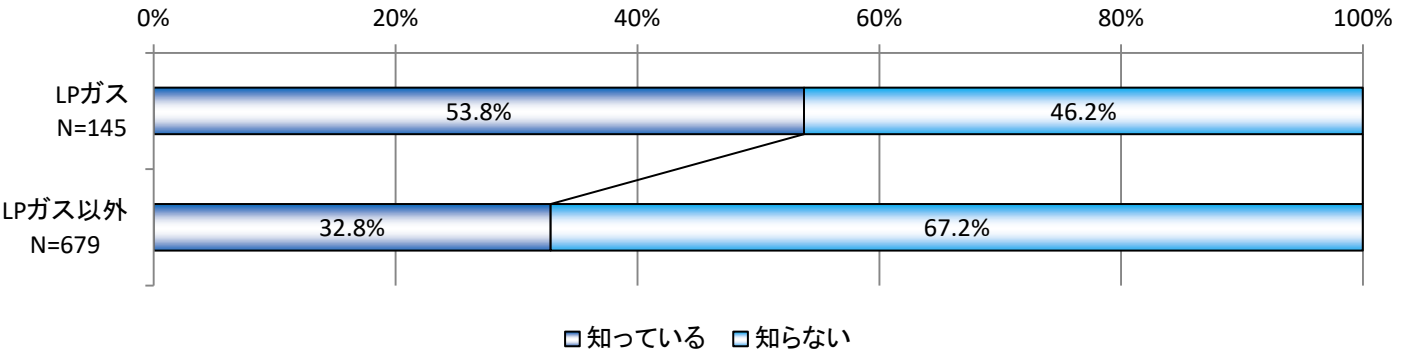
LPガス自由化の認知度



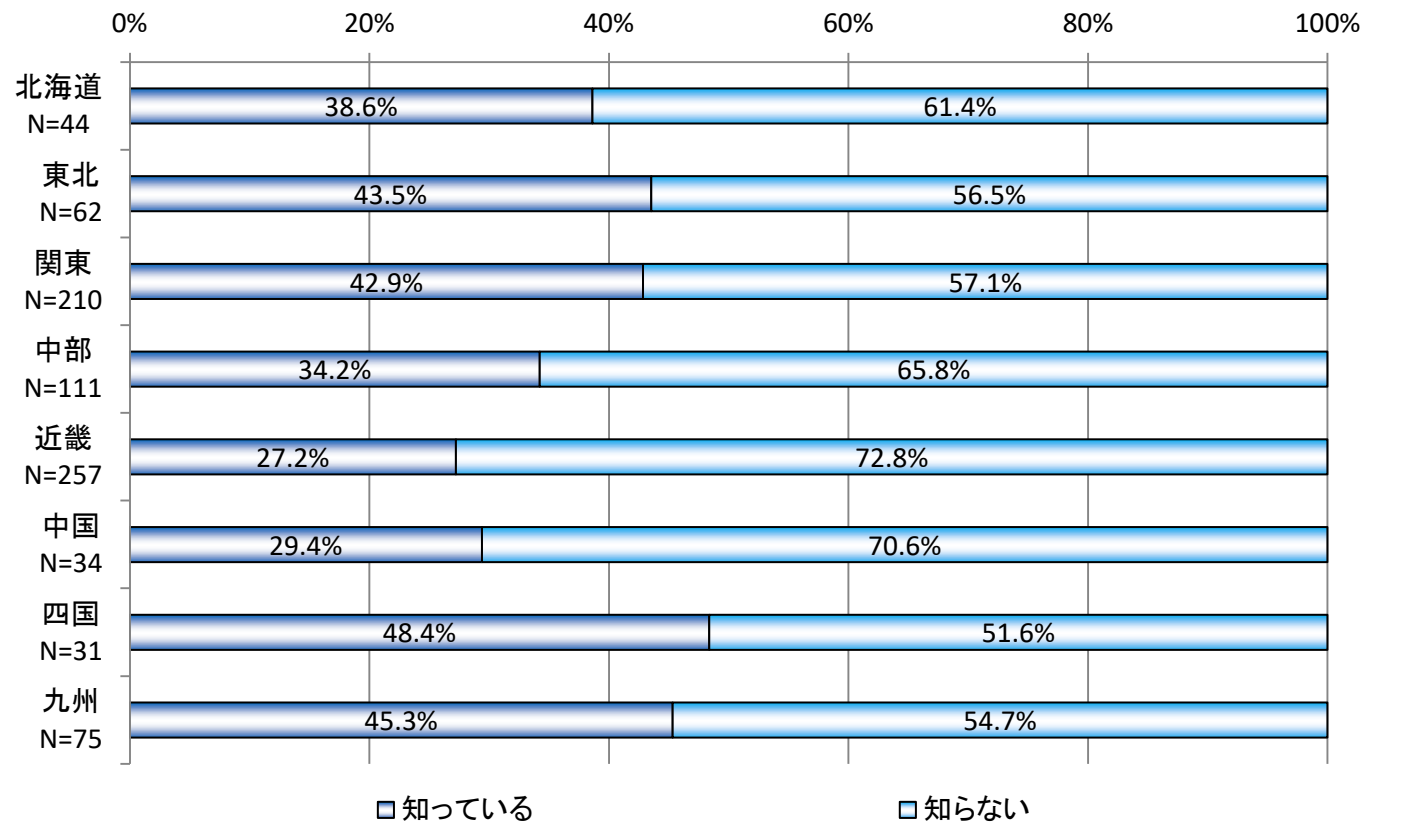
使用別の比較では、LPガスを使用していない世帯で「知らない」が67.2%と7割近くとなっています。また、LPガスを使用している世帯でも46.2%、5割近くが「知らない」と回答しています。

エリア別では、おおむねLPガスを使用が多いエリアにおいては認知度が高くなっていて、特に四国、九州、東北エリアが高くなっています。一方で、LPガスの使用が少ない近畿エリアでは認知度も低くなっています。例外で、LPガスの使用が低い関東エリアでは、認知度は比較的高い水準です。反対に、LPガスの使用が比較的高い中国エリアですが、認知度はそれほど高くないという結果になりました。

LPガス自由化の認知度(使用別)



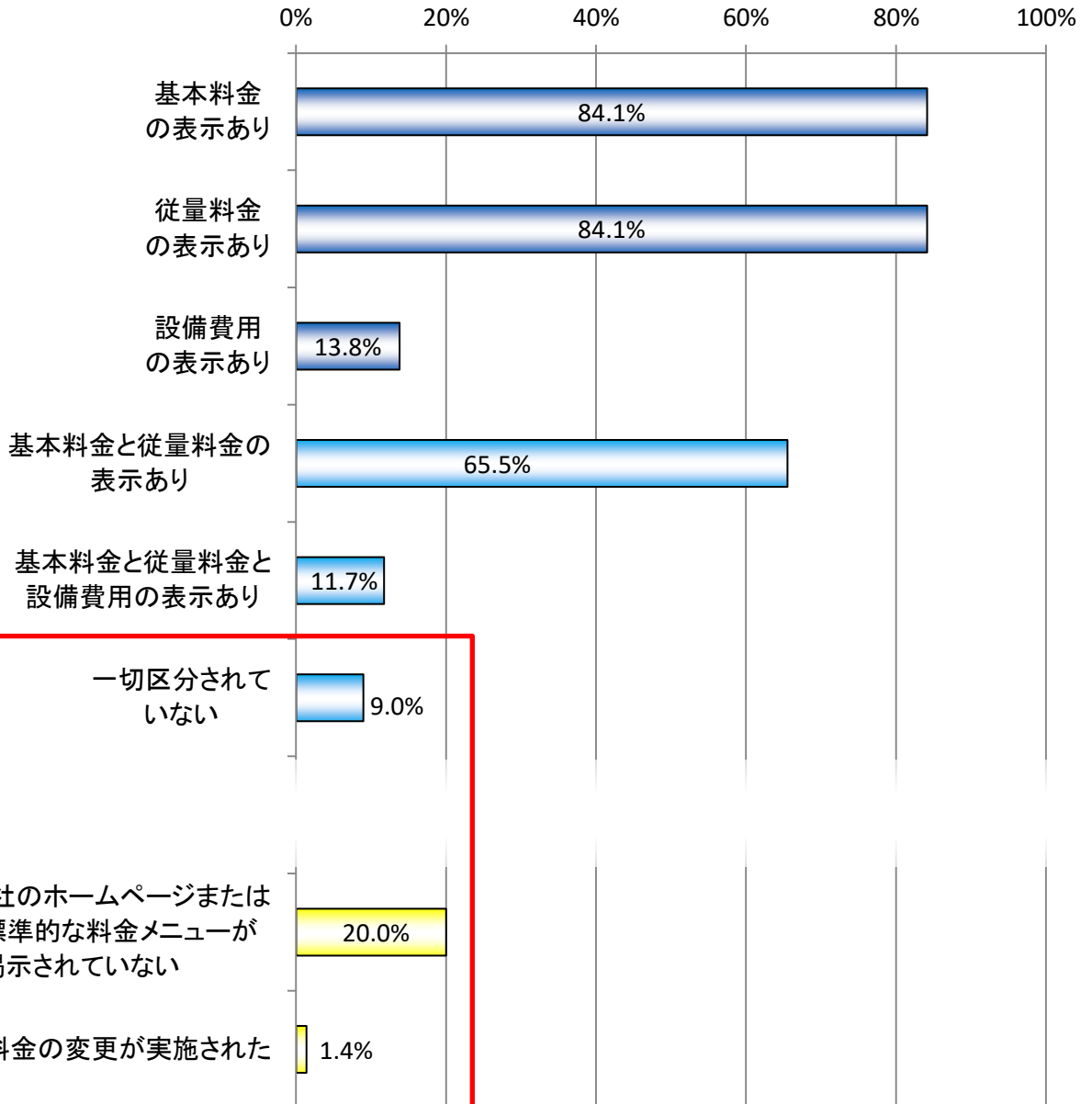
LPガス自由化の認知度(エリア別)



LPガスの請求書や領収書で明記されている費目について聞いたところ、基本料金の表示と従量料金の表示がされているのは84.1%となり、両方が表示されているのは65.5%という結果になりました。一方、一切区分されていないという回答が9.0%となり、料金透明化が徹底されていないことがわかります。

また、LPガス会社や店頭などに標準的なメニューが提示されていないという回答がLPガスを利用しているモニターのうち20.0%、さらには通知がなく料金の変更が実施されたという回答もわずかながら見受けられました。

請求書や領収書で明記されている費目、使用しているLPガス事業者について



基本料金の記載がない請求書の例

LPガス事業者数は全国で18,000社を超え、請求書の記述方法も様々となっています。基本料金がわかるように記載されているうえ従量料金の料金表まで記述されている請求書もあれば、使用量と料金だけしか情報がないような請求書もあります。

基本料金、従量料金の記載がある請求書の例

検針票兼請求書

郵便自振 発行No. []

お客様コード: [] 様

今回検針日: 2019/05/07
前回検針日: 2019/04/05

今回指針	218.3m ³
前回指針	216.0m ³

担当 []

今回使用量	2.3m ³
前回使用量	(2.4m ³)

今回御請求額 3,227円

<ご請求金額内訳>

今回ガス料金	2,988円
消費税	239円

《今回のガス料金表》
(税別)

基本料金	1,700円
使用量範囲	従量単価
0.0~ 14.9	560.00円
15.0~ 19.9	510.00円
20.0~ 29.9	470.00円
30.0~ 999.9	360.00円

従量料金の料金表も記載

LPガス検針請求書

検針日 2019年05月21日

[] 様

お客様コード	前回検針日	使用量
[]	2019.04.22	2.6

今回指針	130.3
前回指針	128.1
今回使用量	2.2

使用金額	3,806
消費税	304
今回ご使用金額	4,110

001 担当者: []

(有) []

TEL [] FAX []

基本料金の記載がない請求書の例

プロパンガス検針票(請求書)

/ 年 5 月 23 日

下記の通り、御請求致します。

[] 様

御請求額	2,519円
------	--------

今回指針	22	98
前回指針	22	98
御使用量	1.0	ml
ガス料金	2,519	円
警報器リース料金		円
繰越金		円

*お願い

- ・ガス料金のお支払が、2ヶ月滞納された場合は通告の上ガスの供給を停止させて頂きます。
- ・引っ越しされる場合は10日前迄にご連絡下さい。
- ・お出かけの時、又お休みの前にはガスの元栓を必ず締めて下さい。
- ・ガス器具が不完全燃焼、その他故障の場合はそのままお使いにならず、必ず下記まで御連絡下さい。
- ・ガス器具の御用命は、当店へお申し込み下さい。

*振込先 []

4 お寄せいただいた声(抜粋)

電気料金は安いに越したことはない。今の料金は少し高いと感じている。しかし、電気料金より、電気の供給について、常に安心できることが大切であり、電力の自由化よりも、安心して暮らせる社会にしてほしい。

ガスと電気を同じ会社にすれば料金が安くなるということで同じ会社にしたんですが、安くなったという実感がなくて、わざわざ変える必要はなかったのではないかと感じています。

家計簿を付けていて、気温や生活に直結して電気やガス使用量が変化するのはハッキリしています。毎月の報告書のガス、電気使用量、料金を、同じ50代の方の比較してみると違いを感じています。

電気代やガス代が安くなるのは歓迎ですが、携帯電話はネット回線との抱き合わせは、それに縛りが出たりするとややこしいので、もっとシンプルにしてほしいです。

災害時に迅速に対応するのは従来の大手企業、というイメージが強い。いざという時に新規参入の会社は大丈夫かな？と不安に思う。

新しい事業者が参入しても続くか不安要素があり、結局独占的な所が多い。新規参入も色々条件があったり、説明が不足していて結局以前のままなので何のための自由化かわからない。

使用量の多いところへの割引は大々的に宣伝してるけど、使用量の少ないところへの割引をもっと行ってほしい。環境に配慮した会社をもっと多くなってほしい。

電気、ガス料金は、自由化になり、置き薬の会社や電話会社までが参入しているので、こちらは理解が追いつかず、いまだに従来の会社と契約を継続しています。もう少し、分かり易い料金比較や不利益がないかの比較ができて、自身が理解できれば、検討もするとは思いますが。

自由化は賛成です。抱き合わせのサービスだと辞めた時に元に戻さなくてはならない。また、誰でも参入できれば、相手の信用度が不明な事も心配です。

消費税増税に伴い、料金が上がると思うとつらいです。

入居した町営団地がオール電化で、いや応なしに電気を利用せざるを得ないので不満。しかも現在利用中の料金形態がすでに新規受付中止で、他の料金メニューを試したいが現在のものに戻すことができないので比較しにくい。

オール電化契約なので休日の料金は安いですが、平日の昼間は高いです。現職の時はよかったです。が定年退職し昼間の在宅が多くなってくると、この料金設定は使いづらくなってきました。

現在オール電化だが全てのインフラにおいて災害時の対応に不安がある。いろいろと準備はしているが個人の備えだけではどこまで持ちこたえられるのか不安である。

国民負担が高くなるからの自然エネルギーの買い取りをやめるとかではなく、脱炭素社会をめざしていくべき。日本だけが取り残されていることを恥ずかしく思う。原発の維持管理のためにお金を取られたくない。廃炉になら負担金があっても仕方ないと思えるが。

夏のクーラー代が大きく負担になる。なるべくクーラーを使わないようにしているが熱中症などの事もあるため節約との兼ね合いが難しいです。太陽光発電をつけましたが売電もあるが取り付けのローンもあり本当によかったのか疑問に思う。基本料金がかからなくお得とのことでオール電化にしました。ガス代がかからずお得です。ただ夜になるとお湯が足りなくなってしまうこともあります。

原子力発電所の休止等で電気料金が消費者に降りかかるのは大いに疑問。原子力政策を消費者に提言し賛否を採ったことがあるか？

再エネは必要ですが、再エネ発電賦課金を全世帯から徴収するのはいかなものかと使用量のお知らせを見るたび思います。料金が高いかはそれほど感じていません。

料金が高いと思っています。電気の買取をもっと増やしてほしい。家庭用電気の蓄電池をもっと安くしてほしい。

携帯電話をスマートフォンに変更したら電気料金がUPしました。スマートフォンの充電って、かなり電気を消費するんですね、キッチンの水道は、レバーの角度により、お湯も出るタイプです(水、お湯が、別々のカランでないタイプです)。無意識に、レバーをひねると、夏でも、お湯を出してしまうので、昨秋から、給湯器からのキッチンの水道に接続している元栓を閉め、キッチンでは、お湯を出さないようにしたら、ガス料金が安くなりました。

プロパンガスでも安い所があり、都市ガスと変わらないと言われて入居したが、プロパンガスとしては安くても都市ガスの倍の請求になり、いくらなんでも極端過ぎるのではないかと考えています。

今回のこのアンケートの件で使用量のお知らせの紙の裏面に色々な記載がある事を知った。やはり電気・ガスの自由化を感じる事はないのが実情。

地方は高いです。LPガスは特に高いです。電気に変えてもその設備費を賄えるほど安くはないので現状維持になっています。

ガス代は、都市ガスが割安。プロパンガスは、割高。賃貸住宅では、選択できないので、不公平感がある。

節約もしてますが、使わない訳にもいかず、いくら頑張っても安くはならず…そして急に安くなった5月分。本当に理解不可能です。(LPガスを使用しているが)貸家ともありガス会社も選べず、その辺も待遇を広く見直してほしいです。

新築の際、都市ガスのきていない地域だった。プロパンは相当高いと感じる。いちいち人が運んでいるのだから仕方がない。そこでオール電化にした。以前住んでいた時より光熱費は相当節約できている。全国どこでも都市ガスの普及がすすめばいいと思う。

都市ガス自由化は知りませんでした。現在、床暖房や浴室乾燥、コンロを使用しており、トリオプランという割安なプランになっているので、もし同じ条件でもさらに安くなる安心できる会社があるなら検討していきたいです。

